

## COC+シンポジウム 宇留賀副知事講演（一部抜粋）

2020年2月17日 共愛学園前橋国際大学にて

・地元定着というときに、地元、ないしは、地域にいらっしゃるってことのほうがカッコいいね、とか、そっちのほうが魅力的だねって風になることが一番の重要な展開だと思っています。

・（ドイツでは）日本みたいな世襲的に、あの会社は誰々さんの息子さんが継ぐ、ではなくて、所有自身は、創業者が権利を持っていますけど、経営者はむしろ地元の優秀な人が、大企業を数年やって、大企業ってところよりは、中堅、中小企業に入って、ある意味、全人格的、すべてのものに携われるというやりがいを求めながら入ってくる形で、非常に、会社もそうですし、地域の許容差というところもあるかなというのが、経産省出身ですけど、20代、30代くらいに結構ドイツに行く機会もあって、その時に非常に感じました。

・いい仕事があって、そこにいることが生きがいになるようなところがあると、自然と人は集まってきて、そういう生きがいをもって働いている人、生きがいを持って生きている人がいると、自然とそこにいい人たちが生まれてくるし。そこに至るとカッコいい街ができる。街を作ろうという風に行政が中心になると、箱もの行政になって、ドーンと大きいものを作っていく。それは地域の人からすると、特定の業界には良いかもしれないけど、街全体でいうと、なんとなく自分の魂、血が通いにくいような街になっちゃうかなというところがあると思います。むしろ仕事とか、地域に生きていることというのが、生きがいになるようなところとへ…地方創生というパラダイムシフトをしたところかなと思っています。

・（国内の他の地域では）いずれにしても音楽とか映画みたいなのを組み合わせたりしながら、少しリラックスした形、左脳で計算するばかりじゃなくて右脳で感じるみたいなところを重要視しながら、未来をみんなで語るようなセッションをいっぱい繰り広げるようなことをやっています。群馬でも山本知事のもとでこういうのをやりたいねというのを言っていて、今年の3月、もう来月やりますけど、来月に高崎でも前橋でもなく、草津でそのようなことのハシリをやろうという計画をしていて。今年の3月にイベントをして、9月に本格的にやろうと思っているんですけど。群馬らしく草津温泉で、自分のイメージは、浴衣を着ながら昼間からお酒を飲みながら、未来を語るみたいな感じで。さっきのSXSWというのが、大体10日間位のイベントになるんですけど、基本的にアルコールが入ってない人がいないです。スーツを来てる人は誰もいません。スーツも着てないし、それこそ、すごい偉い人、各国の、あんまり来ないですけど、普通に大統領級の人に来て、スニーカーにジーンズみたいな感じで登場するような形の場所なんですけど、そういうリラックスしたところで、自分の背番号、組織とか、肩書というのをとっぱらって、未来を変える個人として議論に参加して、そこで一緒に何かを得ようとするような人が集まっている場って特に日本人で、お酒がないと開放的にならないので、昼間に知事がお酒飲んでいる、知事はお酒を飲まないの、その場合は僕なんですけど、というのが許されるかどうかというのがちょっとチャレンジなんですけど、リラックスしたスペースでこういうのをやりたいなと思っています。

・個人とか組織という話をしたときに、日本は、個人より組織が強いところがあるんですけど、世界中で個人というのは非常に重視しようというふうの流れがなってきていて、そういう時代になってくると、地域というところには課題があって、でもITの力によって、少数の人数でも大きなことができる、世界を変えることができるようになってくると、一人ひとりのチャレンジ、もともと日本の風土を生かすチャレンジができるかなと思っています…